



## ゴールデンウィークです。火山活動にもご注意ください

2014年の秋の御嶽噴火は、噴火自体の規模は小さかったのですが、秋の行楽シーズンの土曜日のお昼という最悪のタイミングでの噴火で、多くの犠牲者を出してしまいました。

ゴールデンウィーク真っ最中ですが、登山等をお考えの方は、最寄り火山の最低限の火山情報などの入手をお願いいたします。

たとえば浅間山も活発な活動が続いており、傾斜計観測（地面の精密な傾きを測定する装置）では、山体の膨張が確認されています。夜間には高感度カメラで、山頂火口の微弱な火映も観測されています。

右側は代表的な火映現象で、火口内の赤熱や火炎が雲や噴煙に映って赤く見える現象です(国交省による)。

さらに宮崎県と鹿児島県にまたがる霧島連山の硫黄山では、今月25日以降、山が隆起していることを示す地盤の変動が繰り返し確認されています。気象庁は、臨時の解説情報を出して、噴気や火山ガスなどの突発的な噴出が発生し、山の南西側にある登山道などにも影響が出る可能性があるとして注意を呼びかけています。



浅間山や硫黄山に限らず、大型連休で多くの方が登山に訪れる時期でもあり、地元の自治体や観光協会は、観光客にしっかりと情報を伝えたい一方で、火山活動が急に高まった時の対応を考えておく事が求められていると思います。

## 東北地方沖の海域をメインターゲットとした地下天気図®

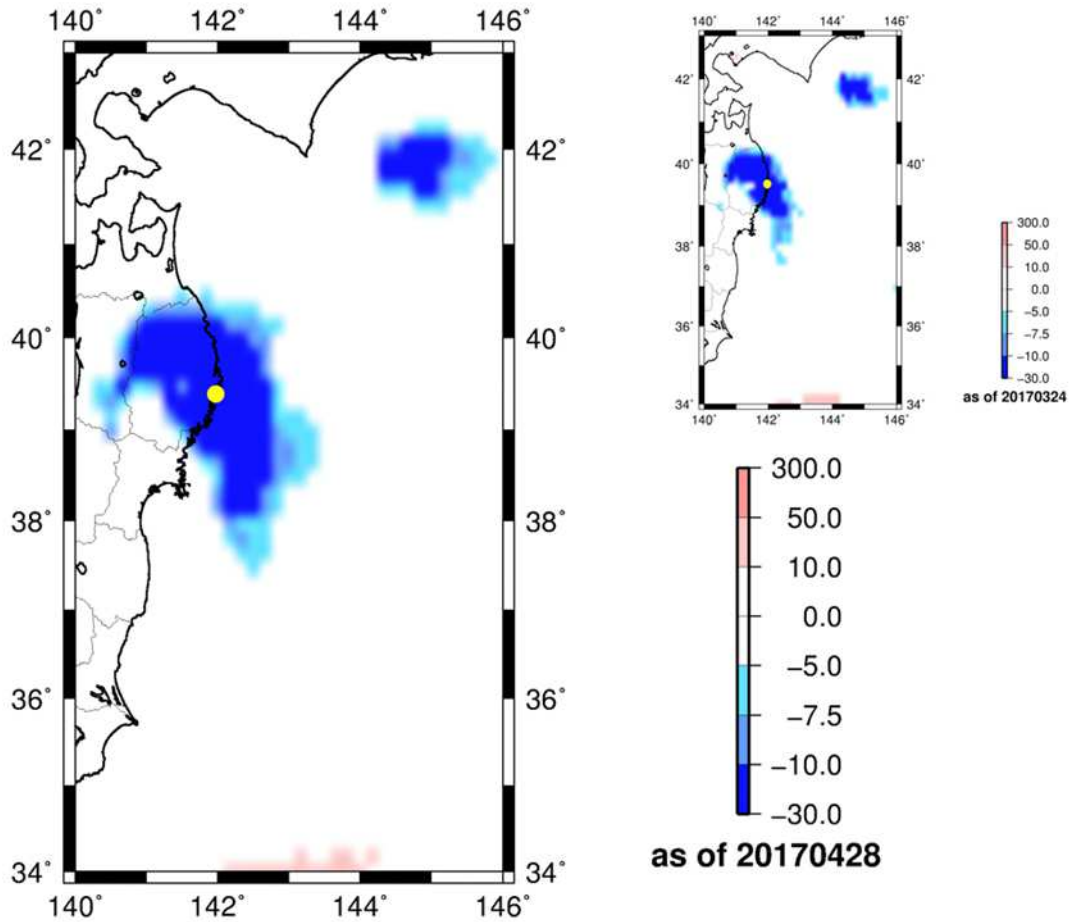
3月27日付のニュースレターに引き続き東北地方海域をターゲットとした地下天気図です。この一ヶ月でさらに静穏化が進行していることがわかりました。

過去の経験則が正しければ、現在静穏化がまだ進行中であり、昨年11月22日に福島沖で発生し、津波警報が出されたマグニチュード7.4のような地震がこの地域で発生するのはもう少し先と考えられます。ただ経験則が100%正しいという事はありませんので、みなさまにおかれましては、「東北地方北部では、M7クラスの地震発生準備がかなり進んでいる」というようにお考えください。

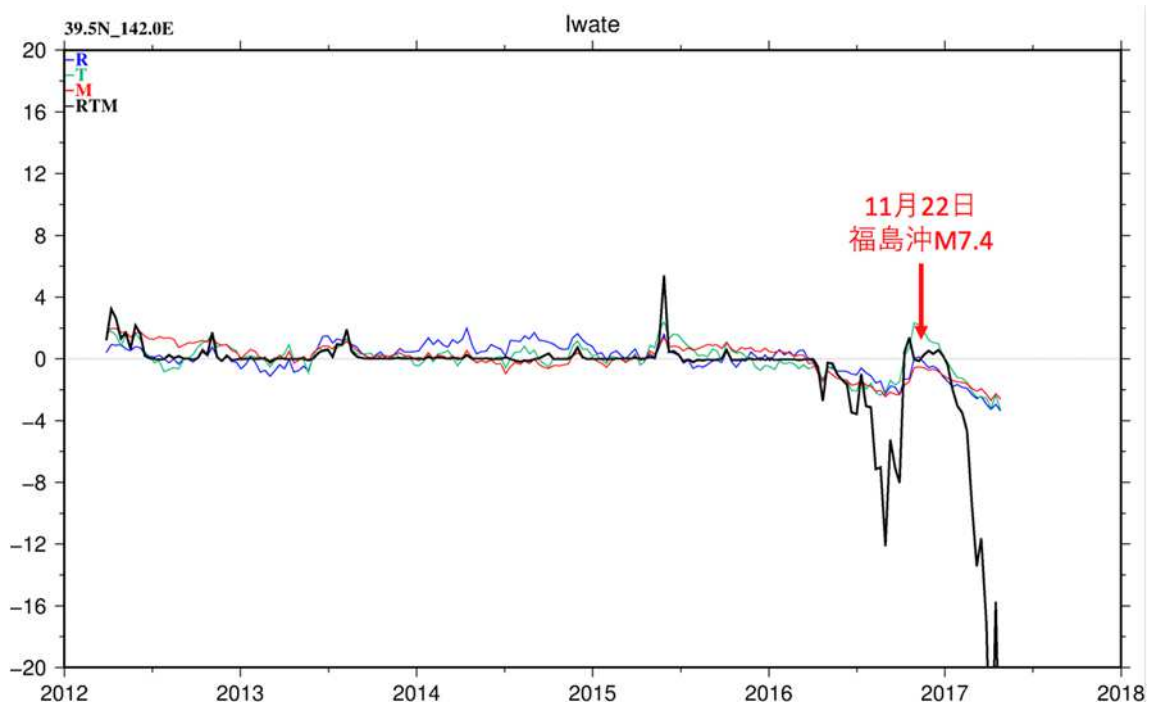
地下天気図解析の一つの目的は、国が「30年で何パーセント」という、極めて長期的な予測しか示していない状況を少しでも改善する事で、「今後数ヶ月から1年」といった時間スケールでの予測とお考えください。決して明日・明後日という予測ではありませんのでご注意くださいませ。



下の地下天気図は4月28日時点のものです。右上は前回お示した3月24日時点のものです。



図中の黄色の丸は、北緯39.5度、東経142度の点で、この地点における地震活動度の時間変化曲線（RTM曲線）を計算してみました。曲線が下側に大きく振れて、静穏化異常が強くなっているのがわかります。





## DuMA/CSO がテレビ番組に出演します

5月6日、22時からのBS-TBS「諸説あり！」という番組に **DuMA/CSO** が出演します。この回の特集は地震予知がメインで私は地下天気図の解説と地震発光現象や、地鳴りについて解説します。

地震発光現象や、地鳴りについては、昭和40年から5年以上続いた長野県の松代群発地震の際の事例を取り上げています。特に番組中でお聞かせする「地鳴り」は実際に地鳴りが録音された極めて貴重な事例です。

番組では私のほかに京都大学の梅野教授が出演し、地震直前に観測された電離層電子密度異常について報告をしています。

<http://www.bs-tbs.co.jp/culture/shosetsuari/>

5月6日放送

### #4 「地震予知は本当に不可能なのか」



ゲスト

長尾年恭（東海大学教授）

梅野健（京都大学教授）

今回のテーマは「地震予知」。気象庁の「地震予知」に関する見解は、「直前に予知できるほど現在の科学技術が進んでいない」、つまり「できない」としている。本当に地震を予知することは不可能なのだろうか。実は今、地震研究の最先端で、新たな予知技術が次々と発表されている。宇宙から地震の発生がわかる？…通信工学のスペシャリストが開発した、世界で注目される画期的地震予知技術とは？ 地下天気図によって地震予知ができる？地震予知の権威が編み出した新たな予知技術とは？さらには、動物や植物が地震の発生を教えてくれるという諸説も。地震予知は可能か、不可能か。様々な説を徹底検証する。